

千年の森便り No.106

2012.07.20

ちば千年の森をつくる会

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

7月16日(祝) 快晴

新井通子、伊藤、岩崎夫妻、鶴沢、小又、苅米、甲斐、久我、栗山、坂本文、重岡、福島、松本、真鍋、村野、山口の17名+東京大学2名の19名

梅雨明けかと思うような日差しの中、午前は水辺清掃、午後は相対照度調査に全員で取り組み、その合間を縫ってマダケ林調査、植物、野鳥、キノコ調査等の班活動、個別活動を行いました。

また、東京大学のお二人の来訪があり、新たなご縁が生まれそうです。

○東大奈良先生ご案内

東京大学大学院自然環境学、奈良教室の奈良秀一先生と学生の宍 茹滢 (Mi Ruying) さん (写真前列中央) が、クロムヨウランとツチアケビ下見調査に訪問され、豊英島の自生地をご案内しました。クロムヨウランは千年広場脇、巨木林植生保護柵内外、シイ・カシ林南斜面を調査、特に巨木林柵内外には昨年の株が多数株見られ、蕾をつけた新芽も出始めていました。千年広場脇のツチアケビは食害で全滅、島入口は2株に減って実がやせ細り、巨木林柵内は1株のみ辛うじて開花結実、ホテイ岬は全滅という状況でした。修士1年の宍さんの研究テーマをご検討中ですが、この日午後調査された東京大学千葉演習林の状況なども踏まえ、今後の研究フィールドと、研究内容・方法など検討されます。

昼食後、奈良先生からご挨拶頂き、奈良研究室の紹介に続き、修士1年の宍 茹滢さんの5年間の研究課題にクロムヨウランとツチアケビの研究を検討されていること、豊英島を下見して、クロムヨウランの豊富な自生状況や森の素晴らしさが印象に残ること、豊英島で研究する場合は会の協力をお願いしたいことなど、お話がありました。奈良研究室の概要は：http://lbf.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/contents/Nara_lab/Top.html 参照。(真鍋)



東大奈良先生をお迎えし総勢 19 名



多数のクロムヨウランに魅せられて



島入口の人工芝玄関マット

○島入口に玄関マット

吊橋入口に人工芝の玄関マットを敷きました。10年前に活動開始し、既にオオバコなど人間の靴底に付着して島に侵入し定着しましたが、今後島外からの種の侵入を防止するためです。入口の玄関マットで良く靴底の土を落として入林して下さい。(真鍋)

○水辺清掃

これまで継続実施しているホテイ岬、スタジイ林下に加え、吊り橋下の3か所に分かれて、水辺の清掃を実施し、ゴミ袋3袋のゴミを回収しました。全体的にだいぶゴミは減ってきましたが、新たに実施した吊り橋下ではカン・ビンだけで袋が一杯となり「清掃作業に終わりなし」を実感しました。(伊藤)

○マダケ林調査

のびのびになっていたマダケ林調査を 11 年、12 年発生竹で行い、ナンバリング、太さ計測、10 年以前の生存確認を行いました。詳細は次の機会としますが、発生竹数に一年おきの増減がみられます。また 06 年発生竹はすべて生存しており、地上部の寿命を確認できるのはまだ先のことになりそうです。(伊藤)

○相対照度調査

午後から、6 チームにわかれて相対照度調査を行いました。梅雨明け前日とは言え日射しは強く、暑い中で直射日光を避けながらの調査となりました。初めに測定したのは、巨木林の柵内外で、柵内外ともに平均 3% となりました。その後、島内 10 箇所と、ヒメコマツ植栽地 2 箇所、スハマソウ自生地の調査を行いました。結果は表のとおりです。データのバラツキは大きいですが、4 年間のデータを比べるとおよその傾向がわかります。今回はトランシーバの不調でホテイ岬方面のデータが欠測となってしまいました。担当していただいた方、ごめんなさい。(福島)

測定箇所	相対照度 (%)			
	2009.7.20	2010.6.13	2011.7.18	2012.7.16
	着葉期	着葉期	着葉期	着葉期
2-7モミ混じり巨木林	0.8	0.6	2.8	0.9
2-13モミ混じり巨木林	8.1	8.6	3.3	2.2
3-16シタケ槽場	2.4	1.7	1.4	2.3
4-16シタケ槽場	1.0	1.5	1.0	4.8
千年広場中央	23.3	18.0	18.9	16.4
コナラ更新林の苗畑	27.1	31.8	19.3	14.0
ホテイチク保護柵横	3.9	4.8	1.1	-
マダケ保護柵の間	16.3	13.1	8.1	-
ガズミ	1.3	3.0	3.7	3.9
ヤマユリ保護柵の中	9.8	5.9	3.5	5.7
コナラ更新林ヒメコマツ		64.1	41.0	42.0
岬ヒメコマツ		57.5	54.2	22.5
スハマソウ北斜面				2.1



水辺清掃(ホテイ岬)



マダケ林調査



相対照度調査(橋の上は100%)



コ克蘭(坂本):7月11日



オカトラノオ(坂本)



アカヤマドリ(坂本):夏のキノコも楽しみ

○植物調査

コ克蘭の花が見ごろでした。オカトラノオが食害保護柵内に咲いていました。高木に開花していたイワガラミは花期を終え結実期に入っていますが、望遠レンズ撮影で萼(飾り花)が一枚であることから、イワガラミと確認できました。ツチアケビは食害を免れた株も、地上部が健全に発育した株が殆ど無く、原因の究明が望まれと共に、地下部がどんな状況か関心がもたれます。(栗山)

お知らせ

○8月の定例活動：夏のキノコと植物の観察会：8月5日（日）

吹春講師をお招きし、夏のキノコとクロムヨウランなどキノコと共生する植物の観察会を行います。添付の「夏のキノコと植物の観察会」参照。9時30分木のふるさと館駐車場集合。公開行事のため一般参加者も募集し、定員40名で募集を打ち切ります。会員の参加希望者は伊藤事務局長 sennennomori@hotmail.co.jp 又は電話：090-6929-6811 宛早急に申込み下さい。

○「シカとカモシカ」；県中央博物館24年度企画展、期間は7月7日～9月17日です。「ニホンジカと共生する森づくり」に関心のある方には、興味深い有益な展示です。問合せ TEL043-265-3111